

明倫

題字：横村正直

平成十八年九月十五日発行
明倫自治連合会広報委員会
発行部数2000部

第8号
04.9.15

明倫学区が平成十六年度高齢者交通事故防止モデル地区に指定される！

高齢者交通事故防止 モデル地区に指定

これは五条署管内において平成十二年十月二十二日以降に交通事故が発生していないという大変素晴らしい、めずらしい記録が続いていること、また、この地域においては老人が無理をして外出していないことが良い結果に繋がっていることなど、一件でも交通事故を減らそうという地域と五条署との取り組みの一環です。



五条署での任命式

交通安全委員会の委員長で今回のモデル地区運動の委員長でもある井上氏(骨屋町)は「地域の住民が行政の事業(交通安全企画)を理解して、警察と共に参加して

もらうことを目的としています。本年度はスタッフも充実しており、いろいろな活動が出来そうです。」

と張り切っておられます。

今後の活動としては

- 交通安全教室の実施
- 自転車の乗り方の指導
- 明倫学区のヒヤリ・ハット地図(危険地域地図)の作成
- 学区内での交通安全パレードなどを予定しています。



八月三日のサマーコンサートでは五条署のバンド演奏の後に暗闇での危険な服装の色ファッションショーなど、誰にも

も分かりやすい安全指導をしていた。八月二十九日には老人・親子を対象に交通安全教室が開催され多数の参加がありました。井上委員長は「これからも明倫学区では高齢者だけでなく全住民に対しても交通事故防止を呼びかけていきますので、協力をお願いします。」と話されました。

自治連合会会長に

吉田孝次郎氏就任

祇園祭前後から体調不良を訴えられていた伊藤連合会会長(天神山町)が、八月十一日付けで、健康上の理由により、



退任され、代わって、副会長の吉田孝次郎氏(六角町)が各委員会の

委員長の推薦を受けて、就任されることになりました。吉田氏は就任に寄せて、「会長職を極めて公平に務められて、常に感謝申し上げておりました伊藤祥男様が八月下旬に緊急手術を要する病気という事で明倫自治連合会会長の辞任を決意され、後事を現本都役員に托されたのを受け、去る八月十一日に理事会を開き、相談協議の結果、今年度会長、後期、残存期間を代行するようにとのこととなりました。伊藤様が健康を回復されて会長職を継続して頂けぬかとの意見も出しましたが、八十歳間近の伊藤様には術後の回復に専念して頂きたいという理事諸氏の意向も強く、新しい執行体制を選ぶに至ったのです。前々会長の秋山様の頃より、市政協力委員会、社会福祉協議会の長を兼務する事となっておりましたが、これを分離、適任者を長とする事、明倫自主防災会の会長については今期に限り、吉田本人が担当し、来期は適任者を長とする事などを私の仕事始めと提案し、これを了承していただきました。明倫学区民諸氏のご協力をお願い申し上げます。

明倫自治連合会会長代行

吉田孝次郎(六角町)

と決意を表明されています。

マンション居住者

まちづくりの強い関心！

マンションに関する調査結果（概要）

まちづくり委員会では、今年の四月と六月に、各町内市政協力委員の皆様のご協力により実施した「マンションに関する調査」の結果をとりまとめましたので、その概要をご報告します。

■調査の概要

— 二種類の調査を実施 —

今回の調査は、よりよい明倫を目指し、まちづくりの目標やルールを定める「明倫まちづくりの指針」を作る取組の一環として実施したものです。

内容としては、棟数、世帯数など、「マンションの現状」を把握するものと、「マンションに居住されている皆さんへのアンケート」の二種類の調査を実施しました。

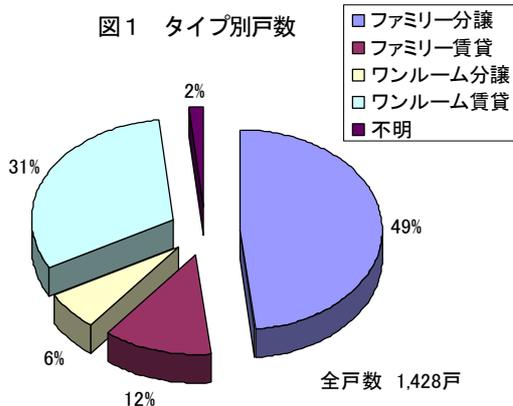
■ファミリー分譲が半数

— 学区内マンションの現状 —

分譲・賃貸、ファミリー・ワンルームを問わず、明倫学区内にあるすべての共同住宅を対象にしました。

その結果、平成十六年四月現在、明倫学区内には四十六棟の共同住宅があり（建築中二棟を除く、全敷地が明倫

学区内のもの）、戸数の合計は、千四百二十八戸で、タイプ別の戸数は図1のとおりです。



●管理人常駐は四割、町費の全戸負担は半数

これら四十六のマンションのうち、管理人が常駐しているのは四十%強で、また、町費を全戸が負担しているマンションは半分程度に止まっています。そのため、町内からの配布物も、ほぼ半数のマンションにしか行き渡っておらず、地域とのコミュニケーションの面で問題が残されています。

■利便性を高く評価、交通安全

全や子育て環境に問題

— 居住者アンケート —

●高かった回答率

アンケートの配布、回収状況は次のとおりでした。

◇対象世帯数：千四百二十八世帯

◇配布数：千三百七十一世帯

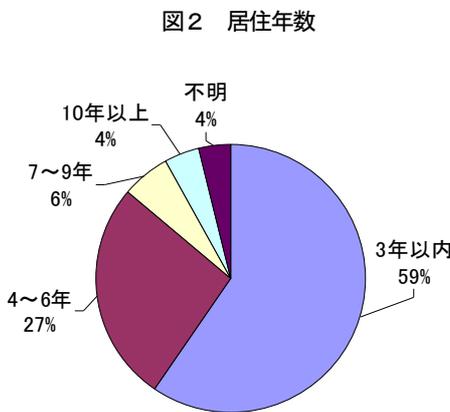
◇回収数：三百七十世帯

◇回答率：約二十七%

二十七%というのは、賃貸ワンルームも含めた回答率としては非常に高く（六十%を超える回答率のマンションもあります）、居住者の皆さんのまちづくりへの関心の高さが現れています。

●年齢層は三十代、四十代、居住年数は六年以上が八割以上

三十歳代と四十歳代を合わせると、回答を頂いた方の半数に近く、全体の



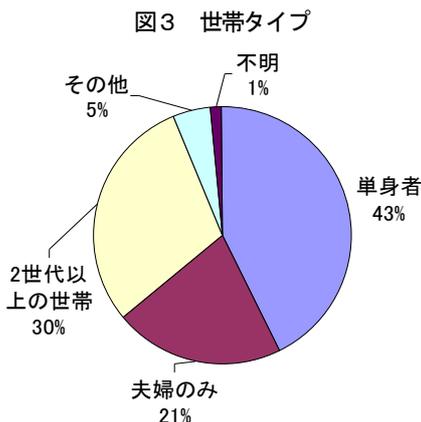
六十三%が女性でした。

また、居住年数は、三年以内が五十九%を占め、四～六年を合わせると八十六%になります。

これらの方々には明倫学区の様子がまだよく解らないという方が多く、地域への関心が非常に高くなっています。

●多い単身者

居住者の世帯タイプは単身者が四十三%で、ファミリータイプのマンションでも単身者が多く、お子さんのある世帯は三十%と比較的少数です。これは、永住意思のある方の割合、三十二%とほぼ同じです。



●「交通機関の便利さ」が魅力

↑ 居住理由 ↓

居住理由については、「交通機関が便利」が圧倒的に多く、次いで「東京都の都心部である」、「生活に必要な店や施設が多い」、「職場（学校）が近い」

など、京都のまちなかにある明倫学区の
 利便さが、大きな魅力になっている
 ことが窺えます。

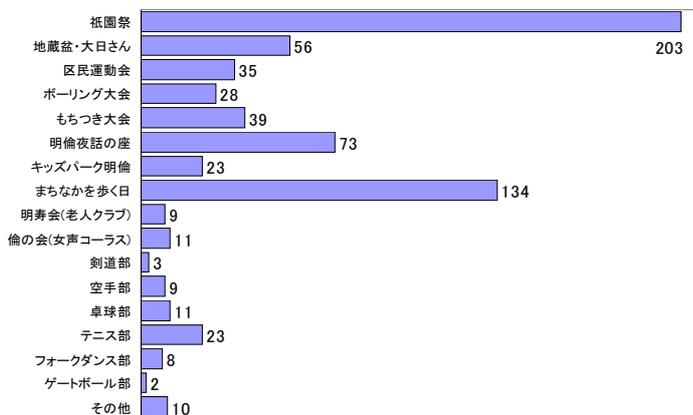
図4 居住理由



● 公園・緑の少なさを、交通安全、日照などが問題
 へ住みにくい理由へ

明倫学区の住みやすさについては、「非常に」と「どちらかといえば」を合わせ八十%近い人が「住みやすい」と答えられています。問題点としては、「公園や緑が少ない」、「通りに車などが多く危険」、「日照や空気が悪い」、「子育て施設や遊び場が少ない」

図5 参加したい行事・活動



など、都心部特有の問題が多く指摘されています。

● 「祇園祭」など地域の行事や活動に大きな関心
 へ参加したい行事・活動へ

参加したい行事・活動については、明倫学区の誇りである「祇園祭」への参加希望が非常に多く、「地蔵盆」やその他の地域の行事・活動に高い関心をお持ちだということがわかりました。その他、まちなかの九学区が共同し毎年十一月に実施している「まちなかを歩く日」や、まちづくり委員会が開催している「夜話の座」などへの関心が目立ちます。

【テーマ別意見】 ※ () 内の数字は意見数。なお、意見数は重複しています。

テーマ	意見数	自由意見のキーワード
地域の行事や活動・サークル活動等に関する意見	21	「活動」
交通問題に関する意見	20	「交通」
子育て環境・子育て施設等に関する意見	17	「子育て環境」
まちなみ・建築物等に関する意見	16	「まちなみ」「建築」
広報・地域の情報等に関する意見	12	「広報」
交流に関する意見	11	「交流」
緑に関する意見	10	「緑」
マナー問題に関する意見	8	「マナー」
伝統・歴史に関する意見	6	「伝統歴史」
商業・産業に関する意見	5	「商業」「産業」
環境問題に関する意見	3	「環境問題」
その他の意見	29	「その他」

● まちづくりに関する多くの具体的な意見が得られました
 まちづくりへの関心の高さを反映し、回答者の三割を上回る百十七名の方に自由回答形式で「意見を頂きました。すべてのご意見をご紹介できませんが、キーワードでテーマ別に分類すると、次のようになります。地域への関心の高さを物語る「地域の行事や活動・サークル活動に関する意見」とともに、「交通問題」、「子育て

まちづくりアイデア (主なもの)

※ () 内の数字は意見の数

- 芸術センターの校庭等の活用に関する意見 (6)
- 元幼稚園の活用に関する意見 (4)
- ホームページ(インターネット)を活用した情報発信
- 散歩の会 (健康のための歩く法)
- 町全体の色の統一
- 看板の色の規制
- 室町通の通行規制
- 電柱の地中化
- 空地を活用した有料駐輪場の設置
- マンション住人が町民意識をもてるような方策を考える など

環境、「まちなみ」、「地域情報」、「交流」、「緑」など、いずれもまちづくりに関して重要な事柄に関する「意見が多くあります。

また、具体的なアイデアについても、右のように多くの貴重な「意見が寄せられており、今後の「まちづくり委員会」の活動や、「まちづくりの指針」づくりにあたり、地域の皆さまと共に考えて行きたいと思えます。

最後になりましたが、アンケートにご協力頂いた方々に厚く御礼を申し上げます。

まちづくり委員会 河野 泰



5月19日
芸術センター・3F
ミーティングルーム

第六回

「銚子の道を考える」

今回は立命館大学理工学部の八木康夫先生と学生さんたちをお招きして、昨年行いました「銚子の道 景観シミュレーション」とそれに対するアンケート結果の報告をしていただき、京都市の方から市内で行われている電線地中化の事例を紹介していただきました。これらを元に、地域の皆さんから活発な意見をいただきました。

「昔はコンクリートの建物のほうがハイカラでいいと思っていましたが、今の若い人の感覚はどうだろう？ 学生がいいと思うデザインを見てみたい」

「山鉦と町並み景観のマッチングはどうか？ ビルと銚子はマッチしないが、今の時勢ではどうしようもない。いい部分が現状維持できればいいが・・・。将来はどうなるか心配」

「電柱の色を変えるとか、換気扇の色を変えるとか、やれるところからやってみてはどうか」

「公共心のあり方が変わってきた。昔の町式目ではかなりきついことを決めていた。公共心を高めずに行政に頼りきってはいけない」

「松坂屋の存在が危ういと心配したが、表の樋をプロンズでやり変えたのを見て、さすがは松坂屋だと思った。京都にふさわしい店を続ける意思表示と見た。そういう気持ちでそれぞれの家に行き続けていけば・・・。」

「最悪のシミュレーションを見て『これではいかん』と思えば意識が高まるのでは」

「それぞれの時代を代表するような建物がバランスよく建てばいいと思う。明治の町家と昭和の町家は横の線がつながり、うまく連担している」

「五十年に一度新しいタイプの町家が生まれている。時々の生活様式に合わせながら再生タイプが生まれているが、それ以降再生タイプは生まれていない。新しい素材でできた建物とトラディショナルな建物のアンバランスさが矛盾として現れている」

「都市でありつつけるには、再生しなければ化石のようになってしまう。そうならないようにしながら、新旧のバランスをどう取るかがこの地域や京都の問題だ」

「昔は夏に表に床几を出して、さまざまのコミュニケーションがあった。そのような公共の場がなくなったことが、公共心の低下、町並みへの関心が低下したことのひとつの要因では？ 夕涼みを再現してはどうか？」

「祭りも生き物、いろんな体験をしながら悶えながら悶えながら、続いてきた。祇園祭に対する地域住民の思いに、深くしみじみとしたものがあるから、乱開発を防ぎ、ふさわしくないことをしてはい

けないという気分が今も生きている」

「さて、立命館大学による「銚子の道」のデザイン研究は現在も続いており、十一月には、まちづくり委員会との共催で再びデザイン展を開催する予定です。」

第七回

南観音山



8月18日
芸術センター3F
ミーティングルーム

南観音山（百足屋町）の理事、木村正之さんをお迎えして開かれました。参加者約40名の方々も興味深く祇園祭のことについて耳を傾けておられました。

木村さんは「お祭り」に携わってからすでに40数年を数え、代々百足屋町で「刺繍」のお仕事をしておられます。当日もお父様の刺繍作品などを見せていただきました。

特に祇園祭巡行が先祭り、後祭りとは分かれて巡行していた当時のことや、また寺町通りや松原通り等の狭い通りをどのようにして巡行していたかなどです。

特に三条新町の狭い角を曲がるには、当時あったお店の中まで引き手達は突っ込まざるをえなかったそうで、その大変な様子が手に取るようですね。

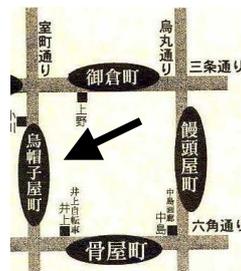
また辻回しの際、竹を車輪の下に引き込むのは最近で、昔は柳の枝を使っていたことなど興味深い話を伺いました。現在は、南、北両観音山にそびえる、松の木がなかなか入手困難で、組み立て時に行司がじゃんけんで松の木を選定するということです。ほんと、私たちにを見たことがない、お町内ならでは面白いお話でした。もつとも昔はもつとゆつくりと、巡行するほうも、見物するほうも、一日かけて祇園祭の巡行を楽しんでいたそうです。

木村さんのお話は、南観音山の一年間にわたる行事についても伺いました。特に現在でも7月31日には愛宕山に奉納のため登られ、愛宕神社神前にて、お囃子のご奉納をなさっているとのこと。また小さいころから参加されている、「お囃子」について、お囃子方への参加にはどうすればいいのか。またお囃子の曲目について、曲数、通り毎に曲が変わることなどについても詳細に教えていただきました。あの狭い「お山」に50名もの人が乗っておられるとはと驚くことがとても多く、興味が尽きないものでした。

百足屋町は、最近も独自に「町内式目」を定められ、ご町内の活動がとても盛んな町内です。

第八回

烏帽子屋町



室町通りの三条から六角の間が、今回ご紹介する烏帽子屋町です。もともと豊臣秀吉が京の都に乗り込んで

きた慶長年間に、ばらばらに住んでいた職人を一まとめにしたところから生まれた名称であるようです。

扇の骨を作る職人の骨屋町、法衣職人を集めた衣棚、釜師を集めた釜座町等、旧市内にはその町の町名がたくさん残っています。お寺まで集約して寺町をつくるのは太閤秀吉らしい、何事も合理的で商工業の効率化を狙った一環の産物と思えます。

町内探訪

ウシに通ずると、昭和28年に

烏帽子とは平安時代以降の男性用の帽子で、公家・武家の平服用、庶民の外出用などに広く用いられていました。さすがに現代では見かけなくなりまして、神社の宮司さんや、相撲の行司さん、お雛さんの人形なんかでそれなりに形は思い浮かぶでしょう。

実は、私の父はこの名前が気に入って、当町に引っ越してきたのです。帽子の商いをしておりまして、烏帽子はエーボ

ほとんど決まりかけていた場所を止めて、こちらへ移ってきました。それから約50年、何百年もここで商売をしている風に勘違いをされる方がおられるので、父にしてみれば、してやったりと墓場です。

当町のもうひとつの顔は祇園祭の黒主山です。昨今のご時世でマンションも増え、建築中のものを含めると合計5棟になります。世帯数も以前の二十七軒から二百五十軒ちかくになり、すいぶん賑やかになりました。お祭りのお手伝いに加わってくださるマンションの住民も増えてきて、町内つきあいが広がってきたのは何とも喜ばしい事です。

平成17年の4月には新しく出来るマンションの1階に黒主山の収蔵庫が誕生し、お祭り期間はロビーが町会所になります。

従来より広くて快適な空間に、ご神体や懸装品のお飾りができる事を皆が今から楽しみにしています。どうぞ来年の夏には烏帽子屋町の黒主山を見に来て下さい。

大田 正樹(烏帽子屋町)



黒主山

明倫学区マンション紹介

第二回

『レスタージュ四条烏丸ラテイス』

所在地：中京区室町通 錦小路下る菊水鉾町5 73番地

レスタージュ四条烏丸ラテイス(略して、ラテイス)は平成14年(2002年)9月から入居

鉄骨コンクリート造 13階建て、総戸数は87戸です。

1階のエントランスホールは、京都の路地裏の雰囲気を出し、2階には、菊水鉾保存会会所があり 祇園祭期間中使用されます。

十二階には、大文字送り火の観覧用テラスがあります。

ラテイス管理組合は今年で2期目となります。今年6月には、消防避難訓練を行いました。

ラテイスの地は、茶道の始祖千利休に師事した、茶人の武野燭が「菊水の井」をこよなく愛し、ここに庵を結び茶亭を「大黒庵」と称しました。また、金剛流能舞台の跡地でもあります。

レスタージュ四条烏丸ラテイスと 菊水鉾町



菊水鉾町内の開催される集会には積極的に参加していきたい。

レスタージュ四条烏丸ラテイスと 祇園祭

ラテイス居住者の中で現在9軒が菊水鉾保存会に入会しています。入会者以外でも、七月一日から二十八日の祇園祭期間中、ちまき作りやちまき等の授与、鉾片付け等に参加します。

レスタージュ四条烏丸ラテイスと 明倫学区

明倫自治連合会の発信基地になるよう努力したい。京都の中心部のマンションとして環境の向上に努めてまいります。

記・レスタージュ四条烏丸ラテイス

管理組合



読者のページ

連絡先：長谷川 明（釜座町）
 (TEL) 221-3737
 (FAX) 221-4406
 kaigadou@yahoo.co.jp

都会のオアシス「ビオトープ」をみんなの力でつくりませんか

人類は長年にわたって自然を破壊してきました。いま、人々はそのような自然破壊が人類自身にとつてどんなに危うい取り返しのでない行為であったかに気づき、ようやく各所で自然の保存・回復・創造に取り組み動きが盛り上がりつつあります。人々は気づき始めたのです。身の回りからチョウ、トンボ、ブンブン、バッタ、秋の虫などの昆虫、さまざまな声で歌う小鳥がいなくなつた世界なんてなんと味気ないもの」と「ビオトープ」というのは、元々その地域本来の野生生物が棲むことができ、空間という意味です。最近では、地域の自然を回復および創造する活動をも意味しています。更に、ヒトと野生生物が共存していく社会およびそれぞれ創造するという意味でも使われています。

市街地では、ビオトープを創るような広い場所は最早見当たらないように見

えます。ビオトープは確かに広いに越したことはないのですが、小さいビオトープであってもそれが島のように連続して存在すればそれでも良いのです。これは生態的回廊（エコロジカルコリドー）といい、昆虫や鳥はこの島を渡り歩いて山や森から街の中深くまで遊びに来られるのです。

近年、小学校を中心に「学校ビオトープ」が盛んに行われています。学校のちよつとした校舎脇や中庭を利用してビオトープを造るものです。多くの学校に小さなビオトープを造ることにによりビオトープの繋がりを形成するものです。学校ビオトープは、これだけでなく環境教育をはじめ広い範囲の教材、情操教育、自由な遊びの場としての意味をもつて迎えられるます。実際に学校ビオトープに取組んだ学校の多くのケースでは、PTAをはじめ地域の人が一緒に労力を提供したり、資材や得意とする技術を提供したり、地域ぐるみの活動に発展し、それおきっかけに地域の協同性や親睦が向上しています。



写真提供：NPOビオトープネットワーク京都

ビオトープは元々野生生物を含む自然の復元を含めた環境問題の一環として始まったものですが、最近では市街地

での癒しの場を造り出すという意義も担って注目されています。街中に心の安らぐオアシスのような場を造ろうというものです。ビオトープの水辺ではしやぎまわる幼児とそれを見守る若いお母さん達の幸せそうな時間、高齢者の方が住まいの近くでゆつくりと憩える場、子供達が昆虫を追ったり観察したりできる場、近所のビジネスマンが緑豊かな雰囲気の中で昼の弁当を楽しみリフレッシュできる場、それが市街地のビオトープです。それは行政サイドからの発想ではなく、自分たちの街は自分たちが住みやすいように住民自身で改善してゆくといいまちづくりの発想からのみ出てきます。発想だけでなく住民自身が力を合せて設計し、住民が協力して建設する過程で生まれる住民交流・自治意識が期待されています。

私たち明倫学区は商業地区で自然を創出する場は見当たらないように見えます。この不景気な時期に「自然」どころではないと考えることもできます。しかし明倫学区は決してそんな無粋なところではありません。それどころか多くの商家では家の中に庭園を造り立派な古木や美しい竹やぶさを取り入れておられ（最近のマンション建設で失われたのは実に情けないことです）、伝統的に自然を尊ぶ街であったことはよくご承知のことですね。

明倫まちづくり委員会の中では「他の地区に先駆けてモデルとなり得るビオトープを造ろう」との情熱が盛り上がるうとしています。同じような志のある方まちづくり委員会へご連絡下さい。一緒

に考え、一緒に自分たちの街を創りましょう。
 斉藤昌義（鯉山町）

『高倉小学校十周年記念式典の思い出』

式典に参加して感じた事を書きます。式は楽しかったです。なぜかというところ、田島ゆきひこ先生の講演会もありました。田島先生は、僕の持っている『じごくのそうべい』の作者だったし、この本は僕の大好きな本だからです。それと田島先生は、スケッチ旅行のお話もしてくださいました。又、僕たちは高倉小学校の誕生日のメッセージを贈りました。3年生は、平成13年と8年の出来事を言いました。その後は、くす玉割りです。周りを金色の紙で包んだくす玉の登場でした。丸くなかったので「へんな形だな」と思ったら、バケツを二つ重ねて作ってあったので「工夫したな」と思いました。くす玉からは花が出てきてびっくりしましたが、真ん中から大きな文字でお祝いのごぼうがありました。僕も心の中で「おめでとう」といいました。

高倉小学校
 三年生 井上 旺（鯉山町）

▽街を明るく▽

防犯委員会では夜間の犯罪を防ぐ為に門灯、街灯を点灯することを呼びかけています。犯罪の無い街を作る為に皆様のご協力をお願いします。

インフォメーション

明寿会(めいじゅかい)

明寿会は明倫自治連合会傘下の老人会の名称で、現在百名ほどの会員がおります。

会の目的は「出来るだけ外に出ていき、お互いに顔を合わせることににより、独居老人になることなく、第二の人生を楽しく過ごす」といのもので、おしゃべりしながらものづくりを楽しんでおられるようです。

お世話をされているのは、西ブロックを岸本氏(釜座町)が、東ブロックを五藤氏(西錦小路町)が、会計を池垣氏(頓逗子町)、総務を田和氏(玉蔵町)と田村氏(西錦小路町)が担当されています。会員の資格は明倫学区にお住まいの六十才以上の方なら誰でも入会でき、年会費は一五〇〇円です。(九十才以上無料)

活動内容は囲碁倶楽部、陶芸倶楽部、パッチワークキルト倶楽部の三つがあり、どれでも自由に参加できます。

陶芸倶楽部

毎月二回、芸術センター陶芸室にて、湯のみから始めて花器までを

近藤潤先生(日本伝統工芸会正会員の指導です。会費は一回二〇〇〇円です。現在女性ばかり十一名が参加されています。

囲碁倶楽部

毎週金曜日午後一時より元明倫幼稚園老人クラブ室で開いています。

五藤氏の指導で会費は無料です。現在八名



毎週金曜日の午後は囲碁倶楽部で

パッチワークキルト倶楽部

六月、十月、三月の第四土曜日の午後、元明倫幼稚園老人クラブ室にて年三回の講習会を開いています。

浪越喜美子先生(大津市在住)指導のもとに女性十四名が楽しんでいます。

一回の講習では作品は出来上がりませんので、仕上げはグループに分かれて田和さん、池垣さんが教えています。三月には中京作品展に出品します。

他にも年に一度の総会と有志が集まるお花の鑑賞会等を開いています。入会希望者はいつでも歓迎です。連絡先:

岸本 (221) 2083
五藤 (221) 5392
池垣 (221) 2658 まで

ラジオ体操

少年補導委員会主催(体振後援)のラジオ体操が七月二十日から八月六日まで十六日間、毎朝七時十五分より三十分、芸術センター校庭で開かれました。体振の吉沢氏の(炭ノ座町)の演技にあわせて子供六十人ほど大人三十人ほどが校庭一杯に体を伸ばしていました。島田氏(少年補導)によると、「年々、子供の数が増えてきています。今年には皆勤賞が十三人、精勤賞が十五人でした。」とうれしそうでした。



明倫祭事委員会

中尾金次郎

今年の祇園祭は 無事に盛大に巡行され学区の皆様の益々の繁栄と隆昌を祈りました。当日はとても暑く、目も眩むばかりでしたが、山鉾は絢爛として悪を祓い、町を清めました。特にはずんだのは二十四日で、神輿が納まり御霊移しが済みましたら夜中を過ぎ二十五日になりました。吉田幸次郎氏と私は、おかげで今年も渡御に参加させて頂きました。

日本の祭は、自然と調和、自然と順応、自然の中に神を祀ってきました。祇園祭は一つの面として、お社の中ではいづれも神々へ豊穰を祈り収穫を感謝し疫病を払う儀式から始まるのを見るなら我々が楽しむ為のものでなく、神を迎え神に捧げる為のものであった。もう一面の社の外では特異な空間を創り非日常的な空間で、日々の倦んでしまった暮らしを活性化させるためのハレの面、この両面が揃ってこそ祭なのである。

十月二十二日時代祭には

三条町 奥井好昭氏

畑 智久氏 畑 尚幸さん以上三名が、

城南流鏑馬に平安四社から出仕されます。当日の行列の応援をお願いします。

次に 十月十五日十時の八坂神社月次祭は、明倫の当番になっています。学区の皆様ぜひお誘い合わせお参りください。

・私のひょうき

この町に住み始めて早5年半が過ぎてしまいました。この町での最大の楽しみは祇園祭りであることは言うまでもありませんが、もう一つあります。毎日に一度は過す喫茶店でのひとときは私にとって生活の一部となつていきます。その日の気分で自転車(ママチャリですが)で市内をうろろる散策、そしてこの茶店で一服しようかな?と。この散策は都度新しい発見(へえ〜)があり京都の歴史、文化の深さを再認識。また明倫内でも二日と明けず茶店通ひしています。耳障りのよいBGM聴きながらのんびりスポーツ紙、日誌教紙に目を通したり、ちよつとした書き物(じつは週末のひととき、この原稿も)したり、タバコを一服してのコーヒータイムのひとつときは居心地のよいわたしの時間、わたしの居場所です。ここです。す町中(河原町など)とはまた違ったこの町の顔が見えます。常連さんの一服場所であったり。平日は仕事の打ち合せ、週末はサークル活動のグループの打ち合せなど。 コーヒー、新聞、タバコ、BGMは私の喫茶店でなくてはならない4点セットです。

三条町 岩本



イラスト
: 馬井 馱朗

スケジュール

★芸術センター

九月二十八日から十月三日
演劇公演「アルマ即興」
一般2500円 学生2000円
十月は映像・ダンス・音楽を用いた様々なイベントを開催します。

十一月六日15:00・19:00開演、七日19:00開演
継ぐこと・伝えること番外「鳳人話のとりひとはなし」
前売1,800円
当日2,000円
高校生以下500円

十一月二十一日第273回市民寄席
14:00開演
前売1,500円

★高倉小学校

高倉小学校のメール

takakura@edu.city.kyoto.jp

- 9/1 避難訓練
- 9/3 授業参観
- 9/27~29 みさきの家(五年・旧海の家)
- 10/3 運動会
- 10/8 前期終業式
- 10/9~13 秋休み

★キッズパークIN明倫

- 10/14 後期始式
 - 10/19 秋の遠足
 - 10/20~21 山の家(四年)
 - 10/27 生け花体験(四年)
 - 11/11 持久走大会
 - 11/12 生け花体験(六年)
 - 11/24 授業参観
 - 12/6~9 個人懇談会
 - 12/24~1/6 冬期休業
- 毎月第二、第三火曜日の朝十時から十一時半まで、0歳から就学前の子供に「あそびの場」を元明倫幼稚園で行っています。
- 八月十日は、水遊びができる場所もつきました。園庭の藤だなの下に2つのプールをおいて、色水遊びや、ペットボトルでつくったじょうろで遊びました。お盆前で、子供たちの数は少ないかと思いましたが、二十七組の親子が参加されました。はじめ、こわごわでなかなか水に入ろうとしなかった子供たちですが、最後は「もう一回」ともってきた着替えがなくなるまで、楽しんでいました。
- また学区社会福祉協議会から、ジャングルジムの寄付もありました。
- 毎月第二火曜は京都市から保険・保育士さんや、地元学区の社協、民生の皆さんもお手伝いに行われます。
- お母さん同士のふれあいの場でもありません。気軽に参加ください。
- (児童委員 百足屋町 北川)

★文化協議会のお知らせ

- 一 歴史文化講演会 (テーマ未定)
日時 十月二十五日
午後2時~3時30分
会場 未定
- 二 文化財鑑賞会
日時 十六年十二月上旬
場所 東寺
参加料 拝観区域に加え五重塔初層内
自己負担五百円から千円程
- 三 区民文化芸術作品展
日時 十七年三月七日~十一日
会場 区役所1階区民ホール

各申し込み、募集方法は市民しんぶん区民版に掲載されます。一人でも多くの皆様のご応募お待ちしております。

詳しいお問い合わせは、百足屋町 小西まで (255) 3801

編集後記

明倫学区まちづくり委員会に参加させていただき、もう3度目の秋を迎えます。「まちなかを歩く日」のプロジェクトがきっかけとなり、傍観者の立場が一躍委員へと変わりました。町の真ん中の学区は時代の流れをまともに受け、どんどんと変貌しています。かつての明倫学区のお話を聞くにつけ、諸先輩が守られてきたものを上手に引き継げるように微力ながら努力したいと思っています。京都の町の真ん中、大切にしたい町です。

百足屋町 小島富江